

第4学年 国語科学習指導案

4年2組 36名 指導者 下戸 道子

1 単元 場面をくらべて読もう 「一つの花」

2 目標

キーワードに気をつける読み方を知り，場面意識をもって登場人物の様子や気持ちを読み取って，戦争時の親子を描いた作品世界に迫る。

3 単元の評価規準

場面や登場人物の様子を想像しながら読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

登場人物や場面の様子を，作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読んでいる。

【読む能力】

題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもち，友だちの考えと比べている。

【読む能力】

4 単元について

(1) 単元の価値

子どもたちは，三年上「きつつきの商売」で「場面」という言葉に出会い，三年下「ちいちゃんのかげおくり」で「場面の移り変わり」を考える学習をしてきた。それを受け，四年上「三つのお願い」では，場面ごとの登場人物の気持ちを声に出して表す学習をしている。また，四年上「白いぼうし」では，言葉や表現に気をつけて読んだり，会話や行動から登場人物の気持ちや人柄を考える学習をしてきた。本単元は，中学年の文学作品の学習のまとめの位置にある。高学年では，登場人物の心情や，描写などの優れた叙述に目を向ける学習をするが，その橋渡しの役割ももっている。

中学年のこの時期は，言語能力が最も発達する時期だと言われている。「一つの花」は，直接的な心情表現よりも，状況や行動を表す表現が多く用いられ，登場人物の内面は読み手の想像に委ねられているので，読み取りにも楽しく取り組むことができると思われる。

世界に目を向ければ，さまざまな利害や宗教間の対立が争いを生んでおり，平和な時を経験したことがない子どもたちが増加している。一方，日本では戦争体験者が減少し戦争体験が急速に風化してきている。この単元では，主人公ゆみ子の戦中と戦後を通して，読者である児童と同年代の人物の戦争体験に迫ることができる。さらに，子を思う親の心情というものを想像させていきたい。場面を比べて読む視点としては，戦争中と戦後後の比較はもちろん，父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むことが挙げられる。どんな状況下でも子を思う親の思いの深さは変わらないということを感じさせたい。

(2) 子どもの実態

平成17年9月16日実施 調査人数 36名

<p>1. 国語の学習は好きですか。 はい(18名) いいえ(9名) どちらでもない(9名)</p> <p>1- 国語の学習のどんなところが好きですか。 発表・話し合いをすること(6名) 文章を書くこと(5名) 文章を読むこと(6名) その他(漢字を書くこと)(1名)</p> <p>1- 国語の学習のどんなところがきらいですか。 発表・話し合いをすること(2名) 文章を書くこと(5名) 文章を読むこと(1名) その他(漢字を書くこと)(1名)</p> <p>2. 1学期の国語の学習で楽しかったものは何ですか。 ローマ字(22名) 三つのお願い(17名) 白いぼうし(14名) 春のうた(12名) 新聞記者になろう(12名) 「かむ」こと力(7名)</p> <p>3. 国語の学習で楽しいことは何ですか。 グループなどで話し合うこと(16名) 先生やみんなと学級全体で一緒に考えたりすること(11名) 一人で調べたり,考えたりすること(7名) 学習のめあてを考えること(2名)</p> <p>同じ作者の本を紹介すること(12名) 音読発表会(11名) 登場人物に手紙を書くこと(2名) 劇をすること(2名) 本の帯を作ること(2名)</p> <p>4. これから国語の学習でがんばりたいことは何ですか。 漢字や言葉などをたくさん覚えて使えるようになりたい。(17名) 分かりやすく話をしたり,話の中身を正しく聞き取りたい(7名) 文章を人に伝えるように分かりやすく書きたい。(6名) 文章に書かれていることをしっかりと読み取りたい。(6名)</p> <p>5. 音読をするとき,気をつけていることは何ですか。 間違えないように読むこと(15名) その人になったつもりで読むこと(15名)</p>
--

漢字の読み方(14名)
句読点(10名)
会話の部分(8名)
意味を考えて読むこと(7名)
ゆっくり読むこと(5名)

6. 戦争についてどんなことを知っていますか。

国と国とのけんか ・ 広島と長崎に原爆が落とされたこと
一回の戦争でたくさんの人の命がなくなったこと
終戦60年 ・ 「ちいちゃんのかげおくり」・ 「ひろしまのピカ」

本学級は、「国語が好き」という児童は約半数である。国語の学習はそれほど好きでなくても、1学期の学習の様子からローマ字などの言語事項や物語の学習については、面白さや楽しさを感じているようである。また、グループで話し合ったり、学級全体で行う話し合いには楽しさを感じているが、自分なりの考えを積極的に発表したり、友だちの考えと比べて自分の考えを深めたりすることには苦手意識があるようだ。そこで、分かりやすく話をしたり、書いたりすることをがんばりたいという児童の願いにも配慮して指導していきたい。

また、大事なことであるが、音読するときに登場人物の気持ちを考えて読むことに気をつけたいと願っている児童も多い。

ほとんどの児童が戦争について聞いたり、読んだりした経験があり、何らかの知識を持っているが、その情報源の多くは本やテレビからである。戦争体験者と接する機会もない。それゆえに、児童の「戦争」についての知識は、武器と武器との衝突やミサイルによる攻撃、たくさんの爆弾などのイメージが強いようである。その中にある一人一人の生き方や、家族を失うことの悲しみ、残されたものの暮らしについて考えた経験はあまりないだろうと思われる。「一つの花」の学習では、一つ一つの言葉を大切にし、人物の気持ちや場面の情景を十分にイメージ化させることを心がけたい。児童がこれまでにとらえてきた「戦争」に対する考えをもう一步深めさせたい。

(3) 指導にあたって

つかむ・みとおすの過程では、題名から内容を予想させ、教材文に対する興味・関心を高めさせたい。また、児童一人一人の初発の感想を発表させ、学級全体で感想を交流させる中で生まれる問題をもとに学習のめあてを設定させたい。

しらべる・ふかめるの過程では、場面ごとの登場人物の気持ちや情景を読み深めるため、登場人物の言動を表す言葉や場面の様子を表す言葉に注目させ、気持ちを想像させていきたい。

まず、食べ物や町の様子に着目させ、言葉を手がかりにして戦時下での生活の厳しさを読み取らせたい。また、めあてに即して両親のゆみ子への気持ちがよく分かるところを見つけさせることによって、両親の愛情の深さを想像しながら読み深める力を高めさせたい。

そして毎時間の活動の終わりには、場面ごとの読み取りを通して、考えがはっきりしたことや深まったこと、さらにみんなと話し合いたいことなどを活動の終わりに書かせ、自分の取り組み方や学んだ内容などを表現させるようにしたい。また、

読み深めたことを音読によって表現させたい。

ふりかえる・いかすの過程では、登場人物への手紙を書くという形で、読み深めた作品への感想を持たせ評価に生かしていきたい。また、戦争に関する本や今西佑行の他の作品を紹介する活動を通して学習を広げさせていきたい。

5 指導計画（全11時間）

過程	主な学習活動	評価規準（方法）
つかむ・みとおす	全文を読み、学習のめあてをもつ。 ・強く心に残ったこと、みんなで話し合いたいこと等について初発の感想を書く。 ・感想を元に、学習のめあてや計画を話し合う。	関：題名から内容を予想し、初発の感想をもって話し合いに参加し、学習のめあてをつかんでいる。 (発言・観察・ノート)
しらべる・ふかめる	場面ごとに、父・母・ゆみ子の気持ちや情景などを読み深める。 第一場面を読み、「一つだけちょうだい」というゆみ子の言葉から、戦時下の生活の厳しさを読み取る。	読：戦時下の厳しい生活状況を表す叙述を手がかりにして、ゆみ子への両親の気持ちを読み取っている。 (発言・ノート)
	第二場面を読み、父と母の対話から、ゆみ子の将来を案じる両親の気持ちを読み取る。	
	第三場面を読み、駅に見送る場面から、出征ということの意味や父母の心情を読み取る。	読：見送り当日の家族の様子を読み取り、コスモスにこめられた父の気持ちを考えている。 (発言・ノート)
	第四場面を読み、コスモスの花をゆみ子に手渡し、去っていく父の心情を読み取る。(本時)	
	第五場面を読み、10年後のゆみ子と母のくらしぶりを読み取る。	読：戦中と戦後の生活の様子の違いを読み取り、母の気持ちを想像している。(発言・ノート)
ふりかえる・いかす	感想をまとめる。 ・自分の読みの深まりを確認して、ゆみ子・父・母への手紙を書く。 ・「一つの花」を音読する。(全文を味わいながら音読する。) ・戦争に関する本や今西佑行の他の作品に親しむ。 ・評価テスト	関：読み深めた作品の感想を、登場人物への手紙という形式で書いている。(手紙)

6 本時 (6 / 1 1)

(1) 目標

第四場面を読み，コスモスの花をゆみ子に渡す父親の気持ちを読み取ることができ
る。

(2) 指導にあたって

つかむ・みとおすの段階では，本時の学習場面を各自で音読させ，父親の気持ちを中心
に読み深めていくのが学習のめあてであることを確認させたい。また，戦
時下にある家族の状況にも目を向けさせたい。さらに，読み取りの方法として「読
む・線を引く・話し合う・まとめる」という進め方を確認し，学習の見通しを持た
せたい。

しらべる・ふかめるの段階では，教師が単元のはじめに示した「読む・線を引
く・話し合う・まとめる」の読み取り方の方法に沿って，倒置法や比喻，ダッシ
ュ等の技法に着目させながら，登場人物の心情を読み取っていく活動を行い，さ
らに，線を引いた箇所における父親の気持ちを想像させ発表させることを，自分
の思いや考えを伝える場と捉え，仮説 1 を実証したい。

ふりかえる・いかすの段階では，毎時間行っている，音読とノートによるふり
かえりを適切な学習活動と捉え，仮説 2 を実証したい。また，音読を隣同士で読
み合ったり，ノートへのふりかえりを発表させ，良かったことを言わせることが，
それぞれの活動を認め合うことになり，一人一人を生かす指導につながると考え
る。

(3) 本時の展開

過程	主な学習活動	時間	評価と支援
つかむ・みとおす	1. 本時で学習する場面を確かめ，めあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">お父さんは，どんな気持ちでゆみ子にコスモスをあげたのだろう。</div> 2. 読み取り方について確認する。 読む 線を引く 話し合う まとめ	7	学習の進め方について見通しをもたせるために，前時までの学習を想起させ，読み取りの手順を確認させる。 課題を解決するために，コスモスのことが書いてある部分とお父さんがコスモスをあげた理由が分かる部分を見つけるよう指示する。
しらべる・ふかめる	3. 第四場面を読み，課題を解決する。 (1) 音読をする。 (2) 一人調べをする。 (3) 調べて考えたことを話し合う。 【視点 1】 どうしてお父さんは「ぶいといなくなった」のだろう。 ・ ゆみ子の泣き顔を見たくないから。 ・ 笑顔でお別れをしたいから。 どうしてコスモスをあげたのだろう。	30	学習場面を音読させる中で，手がかりを確かめさせる。 手がかりとなる部分に線を引いたり，分かったことを書き込んだりしながら調べさせる。 手がかりを見つけられない児童には，「プラットホームのはしほの～」「～さあ，一つだけあげよう。～」の部分をもとに考えるよう助言する。 手がかりの言葉をもとに，課題

し ら べ る ・ ふ か め る	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスがさいていたから。 ・ コスモスの花を見つけ、心に感じるものがあったから。 どうして「一つだけのお花，大事にするんだようー。」と言ったのだろう。 ・ 命を大切に元気に育てほしいから。 ・ コスモスを自分だと思って代わりに大切にしてほしい。 「～一つの花を見つめながらー。」のところは心の中で何と言っているんだろう。 ・ ゆみ子が喜んでくれてよかった。 ・ お母さんと一緒に幸せに暮らしてほしい。 <p>(5) 分かったことをノートにまとめる。</p>	<p>についての自分の考えを根拠もつけて話させる。</p> <p>コスモスをあげた理由とともに，コスモスに込めたお父さんの思いや願いがあることに気づかせる。</p> <p>【読】コスモスの花に込められたお父さんの思いを想像することができたか。</p> <p>コスモスに込められたお父さんの思いをとらえることができていない児童には，前時までの学習内容を想起させ，これまでどうやってゆみ子をあやしていたかを考えさせる。</p> <p>ゆみ子の両親の気持ちに対する共感や感動をノートに書かせる。</p>
ふ り か え る ・ い か す	<p>4．学習のまとめをし，読み取ったことを生かして音読をする。</p> <p>(1) 両親の気持ちを想像しながら音読する。</p> <p style="text-align: right;">【視点2】</p> <p>5．次時の学習について知る。</p>	<p>一人一人のよさを生かすために，一人読みのあと，ペアで相互読みをさせる。</p>